

## NEWS

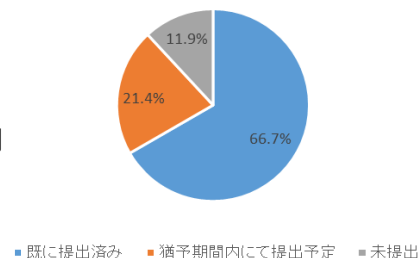
# 科学的介護（LIFE）データ提出事例ご紹介！！

### 【66%を超える高いデータ提出実績～弊社ユーザー様アンケート調べ】

令和3年4月より科学的介護情報システムを活用したデータ提出が始まりました。申請申込葉書ベースで対象事業所の約半分（204国会にて:3/30）の状況の中、弊社ユーザー様は、アンケートによると、非常に高いデータ提出であることが傾向して見受けられます。今回は4月よりユーザー様が実際に提出された事例を元に運用上のポイントなど実務の詳細をお伝えさせていただきます。

従来よりの弊社システム【BlueOceanNote】の「紙の感覚で帳票作成できる」

特長とあわせて、従前から取り組まれているユーザー様のしっかりした運用体制が成功の秘訣のようです。



## ユーザー様ご紹介

# 介護老人保健施設 ろうけん青空 【明輝会様】



### 【運用体制の下地が成功の秘訣！】

2018年の制度改正以前より、超強化型老健様として求められる在宅復帰・在宅療養指導等を中心に多職種情報連携を含めた高度な運用体制を実現しています。ご利用者様に関わる情報の取り扱いについての専門職種でどのような情報が必要かを意識された各部門間でのやりとりが日常的に行われていたこともあり、初月の大変さはあったものの、4月よりデータ提出ができました。（統括部長より）

## BONを活用した帳票作成、データ提出について

### 【紙と同じ感覚で帳票作成できるわかりやすさ！】

今までも帳票作成をBlueOceanNote（以下BON）で行っており、「紙と同じ感覚で」帳票作成できる点が、従来と同じく運用できたことで、「どの部分を作成しているか」「入力枠のサイズから文字数制限がイメージしやすい」などの現場評価となっています。旧CHASE画面にて直接入力を3月に一度トライされたものの、入力画面が多岐にわたることや、データ提出項目中心に作成すると帳票形式としてご利用者への説明同意活用が活用しにくいこともあり、4月よりBONにてLIFE対応をスタートしました。また、複数の事業所を跨って利活用している専門職からはクラウドサービスのメリットとして、パソコンの場所に捉われず、データ閲覧・作成ができたことも挙げられます。（相談員より）



## データ提出初月（4月）で苦労された点～帳票作成



### 【厳しい状況の中、初月から期限内でのデータ提出実施】

厚労省による帳票レイアウト公開が遅く、時間がない中で4月算定予定の全員分の帳票作成をしなければならなかった点が一番苦労しました。また入力項目の例など情報が少ない中で対応せざるをえず、ヘルプデスクよりの回答を待たずに各種業界団体等から情報取得しつつ、なんとか期限内での作成ができました。

LIFEも含めた制度改正情報の取り扱いについては、以前から法人内の共有フォルダにて集約し共有する運用をされており、とくに大きな混乱はありませんでした。

## データ提出初月（4月）で苦労された点～データ提出

### 【データ提出完遂するための現場判断と運用体制の徹底】

厚労省のLIFE画面ですが、ログインに時間がかかること、当初データ取込のみを想定していたので各事業所毎でPC1台の設定準備で運用開始しましたが、エラーチェックなどの作業ボリュームもあり、設定されているPCを増やす必要に迫られました。

また、エラー通知内容が英語表記であることや、提出実データと公開されている外部IF項目一覧と付け合わせながら調査しなければならないこと、個人情報の関係もあり、被保険者番号などから追って調査するなど、非常に時間を割かれました。運用フローについては、多くのご利用者様を有する老健では確認頻度を高めるため、データ取込単位を4～5名づつ小分けにするなどの対応はございましたが、全体の流れとして、まずは1名分で帳票作成したのちにデータ作成することで精度を高め、一括CSV出力作業については法人で選定されたご担当者にて実施することで運用を統一しました。



## 5月以降のお取り組みについて

大きな流れは4月と変わらなかった（スタートした運用手法が正しかった）が、提出タイミングの見直しや、4月では帳票作成+データ提出に追われたところから、5月以降は、より内容の充実に努めることができました。

## データ取込時、エラーにならないよう運用上注意したポイント

当該データに影響がでないように、データ提出後から次月分の帳票作成に取り掛かるルールを徹底しました。また、次月の介護保険更新情報（介護度変更など）も当月データ提出に影響がないように、注意するだけでなく、複数のサービスにまたがる基本情報の取り扱いについては今まで以上に取り扱いに気を付けました。



## フィードバックに今後期待すること

現在は各項目の集計データにとどまりますが、「同じ状態の方がどういった取り組みをしたら、どう改善されたか」など具体的な情報提供を期待したいと思います。